

## 第7回（平成21年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2010年2月9日（火） 14:00～17:30

場所：文部科学省 東館16F 3会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：山崎俊嗣（産業技術総合研究所）安間 了（筑波大学）  
池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）沖野郷子（東京大学）  
坂本竜彦（海洋研究開発機構）平野直人（東北大学）山本啓之（海洋研究開発機構）  
リエゾン：末廣 潔（IODP-MI 代表）北里 洋（SASEC 委員；海洋研究開発機構）  
文部科学省海洋地球課：柴田晋吾 肥田慎司  
海洋研究開発機構：倉本真一 阿波根直一  
事務局：加賀谷一茶 梅津慶太

### 欠席者（敬称略）

執行部：芦 寿一郎（東京大学）末次大輔（海洋研究開発機構）高澤栄一（新潟大学）  
林 広樹（島根大学）松本 剛（琉球大学）森田澄人（産業技術総合研究所）  
山本正伸（北海道大学）

### 議事次第

- J-DESC の運営について
  - ・J-DESC 会計業務委託：正会員 Mail 承認可否伺い結果〔事務局〕
  - ・新事務局の体制と支援内容〔CDEX〕
  - ・J-DESC サーバ移転作業〔事務局〕
- IODP-MI の役割ならびに双方への要望について〔IODP-MI 末廣代表／山崎部会長〕
- CDEX 報告〔CDEX〕
- IODP 科学計画更新〔山崎部会長〕
  - ・IWG+報告〔柴田企画官〕
- SAS パネル・国内委員会関連
  - ・#9 SASEC 会議報告〔北里 SASEC 委員〕
  - ・#10 EDP 会議報告〔事務局〕
  - ・SPC 委員公募〔事務局〕
  - ・STP 代理委員選出承認可否〔事務局〕
  - ・掘削航海専門部会 部会長・委員選出〔山崎部会長〕
- IODP 掘削航海関連
  - ・乗船者公募結果〔事務局〕
  - ・Exp.327 Juan de Fuca2 への Asian Participation 受け入れ〔山崎部会長〕
  - ・Exp.323 Bering Sea Paleooceanography 追加サンプリング(#2 Sampling Party)について
- 学術交流関連
  - ・Asia-Pacific IODP Consortium meeting 報告〔山崎部会長〕
  - ・モホ掘削 WS への支援〔山崎部会長〕
  - ・JPGU 地球掘削科学セッション〔沖野委員〕
  - ・NYS へのサポートについて〔事務局〕
  - ・IODP 普及イベント in アキバ(仮)〔事務局〕
- その他
  - ・次回執行部会開催日程の確認

## 議事録（案）

### 1. J-DESC の運営について

#### ・J-DESC 会計業務委託:正会員 Mail 承認可否伺い結果〔事務局〕

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ AESTO の解散に伴い、J-DESC 会計業務を学会支援機構に委託すること、および、AESTO で行ってきた支援を CDEX 内で行うことについてメールにて内諾伺いを行った。
- ・ 54 機関中 39 機関から承認可との連絡があった。反対意見は特にない。
- ・ 最終的な承認は総会にて行われる。

#### ・新事務局の体制と支援内容〔CDEX〕

阿波根氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ 前回の説明時からあまり進展はないが、3 月になればある程度決まってくるだろう。
- ・ ほとんどこれまで同様の支援枠(予算規模)を確保している。
- ・ 手続きなどはこれまでとは異なるため、多少時間がかかることがある。

#### ・J-DESC サーバ移転作業〔事務局〕

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ これまで J-DESC のサーバ契約は AESTO として契約しており、AESTO の解散に伴い J-DESC 独自で契約する必要がある。
- ・ 陸上掘削部会では賛成多数で承認がなされている。
- ・ サーバ移転に伴い、ホームページへのアクセスができなくなる可能性もあるが、その場合は事前に通知を行う。

サーバ移転作業の案は承認された。

### 2. IODP-MI の役割ならびに双方への要望について〔IODP-MI 末廣代表／山崎部会長〕

末廣代表より標記の件について説明がなされた。

- ・ IODP-MI は、IODP に参加するコミュニティにもっと近いところで活動する必要があり、それに向けて動き出している。
- ・ SAS と IO との関わる事項が MI の主な機能。このほか、Data management、Engineering Development、Outreach が重要な役割である。
- ・ 東京海洋大学越中島キャンパスにオフィスを建設中であり、2 月中に完成予定。3 月 1 日から本格稼働。3 月 5 日にオフィスのオープンハウスを行う。
- ・ 東京へのオフィス統合は、予算削減および IODP-MI 内での連携強化を目的としたものである。
- ・ Data management と Outreach の人材募集中であり、強化する。
- ・ IODP-MI としても、「ちきゅう」の能力を十分に発揮するためには、従来の JR 号と同様なプロポーザル評価システムはマッチしないと考えている。この考えはすべてのコミュニティで合意を得ているわけではない。
- ・ 3 年レビューについて、今年が 2 回目のレビューであり、主にプロポーザル評価システムに関するレビューが行われる。
- ・ Associate members の会合を開催した。参加は韓国、インド、中国、ANZIC。Associate members としては、アジア・オセアニア連合体(Asia-Pacific IODP Consortium)を発足させ、SAS 内での声を大きくしたいと考えている。このことにより、末廣代表としては、これまでコストの関係上不可能だったハイレベルなサイエンスの掘削計画を実行できる機会が広がるのではとも考えている。
- ・ 日本はアジア・オセアニア連合とも上手に付き合っていくことが必要。
- ・ NSF は「ちきゅう」が南海掘削と同じテーマであってもコスタリカの地震発生帯掘削を実施することに対する反対は特にない。
- ・ マントル掘削について 2010 年が大きな節目になる。モホール掘削を達成するためには JR 号と同じようなプロポーザル評価プロセスでは実現できないため、日本のコミュニティにも協力を求めたい。
- ・ IODP-MI が東京に移転したこともあり、国内で一般の方々も理解できるアウトリーチを兼ねた研究発表会を J-DESC で企画してほしい。特に、講師のアレンジをお願いしたい。4 月 17 日または 10 日に東京海洋大の講堂を予約している。内容はこれまでの IODP 航海成果の概要を想定している。

### 3. CDEX 報告〔CDEX〕

阿波根氏より標記の件について説明がなされた。

- ・ 3 月 12 日まで清水港に停泊。

- ・明日より、船上スクールを実施する。
- ・3月27日に親子見学会をおこなう
- ・3月6日、7日に一般公開、シンポジウムを開催。
- ・3月13日に熊野灘でダミーラン、4月~5月は横浜本牧ドック入り。
- ・6月から掘削航海を開始(5か月間)。いくつかのオプションがある。

#### 4. IODP 科学計画更新〔山崎部会長〕

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・第1回会議では大きな目次とその下の階層の骨子の案を作り、骨子ごとに誰が書くかを決めた。
- ・次回5月14~16日にロンドンで開催される会議までに執筆作業を進める。
- ・ページ数はISPの半分程度になる。
- ・(非公式・要確認情報)これまでのサイエンスプランの位置づけとは取扱が変わる。従来、ISPはプロポーザル作成のバイブル的なものであったが、そうではなくなり、Funding agency (Fundingの獲得)をより意識したような位置づけになる。ただし、大型のプロジェクトに関しては大きなサイエンスの目標であることには変わりはない。
- ・目次は今のところ、Climatic change, Geodynamics, Deep Life, Earth in Motion (GeodynamicsにMoholeなどのLong-term issue, Earth in MotionにGeohazardなどのShort-term issue。タイトルは変更の可能性あり)
- ・「ちきゅう」に関わる掘削としては少なくともMohole, Geohazard, Island ArcはBoxという形で目立つように書かれる。
- ・日本委員の担当は、大河内委員:Climatic change、稲垣委員:Deep Life、小平委員:Earth in Motion (Geohazard)。
- ・Draftが出来た際にPMOに関わる機会があるため、その時に意見を伝えてほしいとの要請がSPWCの小平委員よりあった。

#### ・IWG+報告〔柴田企画官〕

柴田企画官より標記の件について報告がなされた。

- ・第2回IWG+が1月20日~22日にソウルで開催された。
- ・基本枠組み、資金貢献、IODP-MIの位置づけ、科学評価プロセス、移行期間の取り扱い、その他について議論を行い、大筋事合意した。最終合意は6月に東京で行われる第3回会議でなされる。
- ・基本枠組みはより簡素化し、POC・SOCの概念をなくし掘削船の運航経費は各platform providerが負担し、Commingle fundの仕組みは維持する。資金貢献については、最も高価なプラットフォーム(「ちきゅう」)に対して、貢献調整のための一定の資金を供出する仕組みを作る。
- ・当面の移行期間の5年程度は、IODP-MIを引き続きCMO(中央管理組織)とする。基本機能は現状を維持。
- ・SASはより簡素化する。現在重複しているパネルや委員会の機能・権限を統合する。具体的には、SASEC、SPC、SSEPを2つに再編するなど。また、「ちきゅう」のプロポーザルの評価プロセスはワークショップを通じた別のシステムを導入する。
- ・移行期間については、円滑な移行を確保するため、現在のActiveプロポーザルの取り扱いや、次期サイエンスプラン下での新規プロポーザルの受付、各種委員会の開催のタイミングについて配慮する。
- ・「ちきゅう」のライザー掘削は準備に4年かかるため、次期掘削計画の準備を始めなければならない次期に来ている。
- ・次期計画の名称はIODPにこだわらず、インパクトのあるネーミングを募集してはどうかとの意見もある。
- ・3月17~19日にNSF及びECORDの人が来日して非公式の議論を行う予定。

以下、資金貢献と乗船枠・SAS委員数の関係について

- ・現状では、全ての航海の乗船枠をかりうじて埋めているという状況。
- ・韓国などの研究者が日本枠で乗船した例はある。その際、日本にある期間に一時的に所属している必要がある。
- ・十分な乗船応募があるかどうかは航海によって違う。トータルで見れば、若手の研究者が乗船できる機会が十分にあることは良いことであり、ヨーロッパではそうはいかないと聞いている。
- ・乗船研究者への研究費が実現できれば、より多くの応募があるかもしれない。
- ・SAS委員については人材育成も戦略的に考えていく必要がある。

#### 5. SAS パネル・国内委員会関連

・#9 SASEC 会議報告〔北里 SASEC 委員〕

資料 1 に基づき、北里 SASEC 委員より以下の通り報告がなされた。

- ・1月にソウルで開催。
- ・IODP-MIより、オフィスが東京に一元化され、3月よりフル稼働することが報告された。
- ・CDEXより黒潮の影響が掘削実現に困難をもたらしていることが報告された。Contingency planとして、ライザーレスの掘削を行うことも委員から意見として出た。
- ・SPCより、より現実的な掘削のプランをどう考えていくかが問題であることが指摘された。
- ・Deep Biosphereに関する掘削航海のレビューが行われていることが報告された。
- ・ICDPとIODPの連携をどうするかについて議論があり、それぞれのプロポーザル評価プロセスが大きく異なることが障壁となっている事が指摘された。
- ・FY2011の年間計画をBoGに上げる前に、新たに立ち上げるSub-committeeで検討を行う。日本からのメンバーは北里委員。
- ・IWG+とSASECの関係について、Program architectureとScienceは切り離して議論すべきであるとの意見があった。
- ・2013年以降の計画にはよりキャッチーなネーミングをつけることは重要であるとの意見が出された。
- ・INVESTレポートVer. 7が配布され、SASECからもコメントを出す。現時点でINVESTレポートはおおよそまとまっているはずである。
- ・Sloan財団の支援により、Deep Carbon Observatoryのプロジェクトが2007年に立ち上げられた。4月にはDeep Carbon Cycle国際シンポジウムを北京にて開催する予定。また、これに関連してIODP-MIはマントル掘削に関する新たなシンポジウムの開催を検討している旨が報告された。マントル掘削のシンポジウムは金沢のモホール国際WSとは別に開催予定。
- ・2013年以降のSASについて、SSEP、SPC、SASECを科学委員会と運用委員会の2つに再編する案が提示され、SASECとして大筋了承した。この提案が最終承認された場合、2010年後半から移行段階に入る（この提案は3年評価のレビューコミッティーに送られる予定）。
- ・プロポーザル評価システムとSASの構造に関して議論した。ライザー掘削を含む大型提案はWSを開催しながら初期の段階からIOが関与して成熟させていくというSub-committeeの提案を了承した。
- ・次回は6月に日本開催予定で合意した。

・#10 EDP 会議報告〔事務局〕

事務局より資料2に基づき報告がなされた。

- ・仙台で1月13日～15日にEDP会議が開催された(12日に日本委員のみで事前打ち合わせを行った)。
- ・INVESTの技術セッションの成果の新科学計画への取り組み、EDプロポーザルのレビュープロセス、EDP Technology Roadmap V. 3.0のバージョンアップ、SSEP proposalのレビューが主な議題であった。

・SPC 委員公募〔事務局〕

事務局より資料3に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・大河内委員と徳永委員が3月で退任するため、4月に2名の委員を推薦する必要がある。
- ・SPC委員選出は公募制のため公募分野を検討
- ・笠原副議長に訪ねた結果、2名の候補者の名前をいただいた(専門は蛇紋岩岩石学と地史)。

SPC委員の公募分野は古環境学と沈み込み帯科学とすることを笠原副議長に打診することが合意された。

・STP 代理委員選出承認可否〔事務局〕

事務局より資料4に基づき、標記の件について説明がなされ、代理委員は承認された。

・掘削航海専門部会 部会長・委員選出〔山崎部会長〕

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・発足以来3月で2年が経過し、部会長を含む委員(1名除く)の任期が満了となる。
- ・執行部にて部会長を選出する必要がある。
- ・人脈のあるベテランの方が望ましい。
- ・候補者がいれば名前を挙げてほしい。

この件については、後日メールにて議論を行うことが合意された。

6. IODP 掘削航海関連

・乗船者公募結果〔事務局〕

・Exp.327 Juan de Fuca2 への Asian Participation 受け入れ〔山崎部会長〕

事務局および山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ Juan de Fuca II には当初 4 名の応募(韓国からの Asian Participation 含む)があったが 1 名辞退し 3 名となっている。
- ・ Asian Participation の受け入れについては、Co-chief の辻さんの受け入れが難しいため、産総研か JAMSTEC か海洋研でと考えている。
- ・ South Pacific Gyre Microbiology は 6 名の応募がある(適任者の応募があり次第募集終了)。
- ・ Louisville Seamount Trail は 6 名応募があり、もう 1 名応募がある予定。
- ・ NanTroSEIZE stage 3 は 7 名の応募があり、掘削航海部会では全員 A 評価であった。

Juan de Fuca II および NanTroSEIZE stage 3 について応募者を推薦すること、および Juan de Fuca II については、Trainee、Educator、Engineer などを引き続き募集するが承認された。

・Exp.323 Bering Sea Paleooceanography 追加サンプリング(#2 Sampling Party)について

坂本委員より資料 7 に基づき、説明がなされた。

- ・ 12 月の初めに行ったサンプリングパーティーではすべてのサンプルを採ることができなかった。
- ・ 残りのサンプルを高知コアセンターのスタッフのみで行うと半年かかってしまい、モラトリアム期間がほとんど終わってしまう。
- ・ Exp. 323 の SAC からは、ボランタリーの追加サンプリングパーティーとして認められた。
- ・ 2 月末から 3 月にかけて行うことを計画している。
- ・ この時期は忙しいこともあり、行くことができないサイエンスパーティーがいるため、代理 4 名分への旅費支援を認めてほしい。

追加のサンプリングパーティーへのサイエンスパーティーおよび代理の出席および旅費支援が承認された。

## 7. 学術交流関連

・Asia-Pacific IODP Consortium meeting 報告〔山崎部会長〕

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 中国はビザが取得できず出席できなかった。
- ・ インド、台湾は前向きであった。
- ・ 韓国と ANZIC は変わらず熱心な様子。

・モホ掘削 WS への支援〔山崎部会長〕

山崎部会長より当日追加資料に基づき、説明がなされた。

- ・ 海野氏から 6 月に開催予定のマントル掘削に関する国際ワークショップへの支援の要請があった。
- ・ 本日のメールでの最新情報では要望は 300 万円。
- ・ 支援の手段としては、J-DESC 独自予算または来年度 CDEX から行われる予定の国内支援がある。このような支援はこれまでに例がないため、公平性がある審査および支援実施方法を検討する必要がある。
- ・ IODP-MI などからも支援を受けるようである。
- ・ J-DESC 独自予算からの支援をする場合、IODP 部会の予算に組み込み、総会にて予算案の承認をもらう必要がある。その場合は公平なルール作りが必要。

以下の件が合意された。

- ・ J-DESC としては、このようなライザー掘削を用いた計画への支援を積極的にすべきである(ただし、モホール掘削のみが特別扱いではない)。
- ・ 申請書は「ちきゅう」を使った掘削計画に関する国際ワークショップの重要性を明記したうえで改めて来年度のプロポーザル作成支援課題として提出してもらう。
- ・ 申請は掘削研究専門部会および IODP 国内科学計画委員会でそれぞれ審査し、4 月から CDEX に新たに設置される委員会にて最終決定を行う。
- ・ J-DESC 独自予算からの支出に関しては、フレキシブルに支援できるような制度の案を次回までに作成する。最終的には総会にてルールを承認してもらう。

・JPGU 地球掘削科学セッション〔沖野委員〕

標記の件について沖野委員より説明がなされた。

- ・合計で 27 件の投稿があった(最近の航海関連で 17 件、海洋掘削関係 4 件、陸上掘削 4 件、CDEX 科学サービス関連が 2 件)
- ・コマ割がこれからなので、相談することがあればメールにて行う。

・NYS へのサポートについて〔事務局〕

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・遠方からの学生に対する旅費補助として、会員提案型活動経費審査委員会にて申請額に 10 万円上乗せして支援を行った結果、遠方からの参加者が増えた。
- ・今後執行部にてこうした支援について議論する機会を設けてほしい。
- ・会員提案型活動経費の旅費制限を撤廃するルールを

・IODP 普及イベント in アキバ(仮)〔事務局〕

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・3 月 27 日に秋葉原にて一般向け講演会を行う。
- ・講師は木村 学氏、巽 好幸氏、高井 研氏、西 弘嗣氏。
- ・内容は前半がそれぞれの講師による 15 分間のショートトーク。後半がパネルディスカッション。

8. その他

・コアスクール泥水検層コースについて

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・3 月に開催予定だったが、処々の都合により来年度夏前に延期としたい。その際、これまでに準備を進めてきた部分について今年度の経費執行を認めてほしいとの申し入れが実施者よりあった。

本件は承認された。

・次回執行部会開催日程の確認

次回は 3 月 30 日に開催。